



【来館を促す取組みの推進】

- リニューアル後の図書館は、駐車場も増え、そして、小さな子どもを連れてきても来館しやすい雰囲気になっている。コーヒーも飲めるような雰囲気もいいと思う。利用しやすくなっていると感じる。
- 県立図書館のイベントへの参加や自分がイベントの主催者として利用したことで、これからもっと県立図書館を楽しみたいと話される方が何人もおられた。きっかけや動機、役割があると来館や利用につながるのではないかなと思う。

【児童・生徒の利用促進】

- 色々な感じ方ができる多感な時期の小学生や中学生の利用拡大につながる取組みにも力を入れていただきたい。例えば、中学生にもPOP作りを依頼し、県立図書館に掲示する取組みなどもいいのではないかなと思う。また、県として遊学館や県立図書館見学の際の学校に対する交通費助成も考えてほしい。

【学校との連携強化】

- 探求の授業も始まっている中で、各学校図書館が県立図書館から本を借りられるということはとても大事な取組みだと思う。各学校図書館の利用実態を把握することで、より効果的な取組みができるのではないかなと思う。
- 包摂性という視点から学校との連携の中で何かできれば、これからの5年間、また違った意味で図書館の必要性が出てくるのではないかなと思う。

【戦略的な情報発信の強化】

- 戦略的に情報発信を行うことは難しいことではあるが、ターゲットに合った情報発信が重要である。

- SNSを上手に活用し、来館の動機付けとなるような発信にも取り組んでいただきたい。例えば、映画が流行った時に「この原作を読むなら県立図書館へ」というような発信を行うのもいいのではないかなと思う。

【貴重資料のデジタル化の推進】

- 郷土資料及び県内出身作家やそういった方々の収集・保存・公開は、県立図書館の重要な役割だと考えている。その上で、今後力を入れていくとすればデジタルアーカイブだと思う。現在、県立図書館で公開しているデジタルアーカイブは数が少ないので、今後もっと増やして欲しい。
- 著作権処理が終わったものはオープンデータ化し、利用者が利用しやすい形で公開するようにしてほしい。
- 国会図書館が運営している「ジャパンサーチ」の中に、県立図書館として掲載し、デジタルアーカイブを増やしていくといいのではないかなと思う。大きなシステムを作ると経費がかかるので、既存システムである「ジャパンサーチ」をぜひ利用していただきたい。

【目標達成状況を計る評価項目の設定に向けて】

- 目標値設定を検討する際には、どういう項目で評価するかということ自体の検討もされると思う。ISOの標準やそれをJIS化したJIS規格で図書館パフォーマンスを計る指標があるので、参考にしてみてもいいのではないかなと思う。
- 相互貸借や特別貸出などについての評価指標があることで、県立図書館と公立図書館の連携やこうした利用方法があるということが対外的にも分かってもらえるのではないかなと思う。